2019. 7.20 GEWANDHAUS 龍ヶ崎ゲヴァントハウス【オリジナルCDコンサート】

没後150年 管弦楽法の大家 “ベルリオーズ” 第2回

プログラム

今年没後150年の記念の年に当たフランスの大作曲家ベルリオーズを特集するシリーズの第2回目です。フランス南部の田舎町の医師であった父の長男として生まれたベルリオーズは、一般教育も父の教えによってなされ、学校にも行きませんでした。家庭では宗教的な雰囲気に囲まれ、父に教えられたホラティウス（古代ローマ時代の詩人。）、ヴェルギリウス（ラテン文学黄金時代のローマ最大の詩人。）などの詩の影響は、彼のロマンティックな精神を育てる基礎になっていると言われています。18才の時に医学を学ぶためにパリにで出たものの、オペラに心を奪われ、音楽家への道を歩むことになりますが、音楽に劇的要素を取り込もうとするパリ音楽院のル・シュール教授の教えを受けたことが、ベルリオーズの標題音楽の形成する上での大きな要素となりました。仕送りを受けながら作曲を始めますが、コンクールに応募しても落選。音楽家への道は父の猛反対に合い一時送金を絶たれてしまいます。コーラス・ボーイを努めながら生計を立てますが、その後、父の仕送りが再開、1827年イギリスの劇団の主演女優ハリエット・スミッソンとの出会いが創作力を掻き立てる原動力となり、のちの「幻想交響曲」を生み出し、1830年、カンタータ「サルダナパルの死」でローマ大賞を受賞、芸術的には成功を収めて行きます。ふたりは両親の反対を押し切って1833年に結婚しますが、この結婚の立ち会い人のひとりがリストでした。この頃リストは若いながらも有名でしたが、当時からリストのベルリオーズに寄せる友情の深さを物語る逸話です。ベルリオーズは家計を維持していくために、1834年から新聞に評論を書き始め、作曲と文筆両面からの新たな芸術「標題音楽」を広めようとしました。しかし、交響曲「イタリアのハロルド」や「レクイエム」なども一般的には受け入れられませんでしたが、彼の作品に感激したパガニーニは経済的に苦しかったベルリオーズに2万フランを贈って励ましました。この好意に感激したベルリオーズは劇的交響曲「ロメオとジュリエット」を書き上げ、パガニーニに献呈しました。管弦楽法の大家と呼ばれるベルリオーズですが、彼の書いた「近代楽器法と管弦楽法」は数多く翻訳、増補され、多くの作曲家に影響を与えています。

＊＊＊＊＊＊＊

エクトル・ベルリオーズ（1803～1869）：
序曲“海賊”op.21

アンドレ・プレヴィン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
（1989.5.19 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive）

レクイエムop.5

第２曲　ディエス・イレ（怒りの日）／第６曲　ラクリモーサ（涙の日）
第９曲　サンクトゥス（聖なるかな）／第10曲　アニュス・デイ（神の小羊）

スタンフォード・オルセン（テノール）
ジェームズ・レヴァイン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
エルンスト・ゼンフ合唱団
（1989.5.28 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

エクトル・ベルリオーズ（1803～1869）：
歌劇“ベンヴェヌート・チェルリーニ”序曲

ホルスト・シュタイン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
（1982.3.18 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive）

劇的物語“ファウストのごう罰”op.24

第1部　ハンガリー行進曲（ラコッツィ行進曲）
第2部　メフィストフェレスのアリア ～ 精霊たちの合唱 ～ 精霊の踊り
第3部　トゥーレの王 ～ 鬼火のメヌエット～ 愛の二重唱～ 三重唱／第4部　天国にて

ジュゼッペ・サバティーニ（テノール…ファウスト）/スーザン・グラハム（メゾ・ソプラノ…マルグリット）
ホセ・ファン・ダム（バリトン…メフィストフェレス）/クレイトン・プレイナード（バス…ブランデル）
小澤征爾指揮サイトウ・キネン・オーケストラ/東京オペラ・シンガース
（1999.9.3 松本文化会館でのLive）

★ホームページアドレス　http://gewandhaus.sakura.ne.jp/wp/